



# やまなし

第85号 2014年3月12日(年3回発行)

## もくじ

1 p	第6回山梨県作業療法学術大会	11 p	各種申請書変更のお知らせ
4 p	施設紹介		広告・編集後記
6 p	小児だより		
8 p	地域リハビリテーション従事者研修		
10 p	理事会だより		

## 第6回山梨県作業療法学術大会 前進 ~そこから一步ふみ出そう~

学会運営委員会 編集局 局長  
湯村温泉病院  
手塚 瞳

この度、第6回山梨県作業療法学術大会が平成25年12月1日、晴天のもとで開催されました。今回は例年と違い冬季の開催となりましたが、多くの方々にご参加いただきました。この場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。

今回の学会テーマは、「前進 ~そこから一步ふみ出そう~」でしたが、作業療法士としての私たちの成長や、作業療法士が活躍できる分野、環境について考え、また行動に変えていこうというメッセージを込めて、このテーマに沿って大会の企画・運営を行いました。

今大会では例年の一般演題、ポスター演題に加えて、前回好評だった教育技術講座を取り入れたり、また福祉機器委員会の協力のもと福祉機器の展示とデモンストレーションを行うブースも設置されました。教育技術講座では、身体障害、精神障害、老年期、発達障害の各分野で活躍されている会員に講師を依頼し、講義を行って頂きました。各講師には参加者が主体的に取り組めるよう、グループワークや実技形式にするなど様々な工夫をしていただきました。福祉機器の展示では、実際の業者からの説明や実演を通して、参加者が受身的ではなく自発的に学ぶことができる場面を多く持たせたと思います。また、一般演題・ポスター演題では身体障害や精神障害の分野に加えてターミナルケアなどの分野における経験を具体的に発表されていたり、研究発表など様々なOTとしての役割や視点について発表がありました。対象者への想いのこもった発表、伝わりやすいように工夫された発表に参加者が耳を傾けて聞き入っている様子が見られました。





また、今回は特別講演の講師としてデイサービスけやき通り研究生、株式会社ケアプラネット代表取締役の葉山靖明氏をお招きしました。葉山氏は元々専門学校教諭を行っていました。しかし、脳出血による右片麻痺、失語症を発症、そこで出会った作業療法士との関わりの中で、作業療法により自身の生きる力を得たことをきっかけに作業療法を生かした活動がしたいと思ったことが、現在の役職に就かれるきっかけになったそうです。

講演は葉山氏が運営に関わるデイサービスの利用者の日々の活動風景を写真で紹介しながら「作業とは」、また「作業療法とは」どのようなものであるかを語っていただきました。私たち作業療法士が普段感じている専門性、アイデンティティがなんであるかという疑問や葛藤に対する答えを教えていただけたとおもいます。またその証明ともいえる葉山氏の日々の業務の様子を紹介していただき、デイサービスの利用者の方々がその人それぞれの人生経験をもとに、また「こんなことがしたい」というご本人の意思を尊重した作業を取り入れることで、利用者それぞれが生き生きと過ごしている様子が映し出されていました。また今大会の中で、葉山氏は事前に大会誌に目を通したうえで、関心を持った演題の会場に足を運び、演者と直接対話するなど積極的に参加されていました。そのような探究心の強さやセラピスト一人一人の声に耳を傾ける謙虚な姿勢の人柄に触れることで、葉山氏の周りには常に利用者のニーズにあった作業を提供しようという信念を持った職員が集まり、良い施設運営を可能としているのだろうと感じました。

運営委員会の活動としては、例年とは開催時期が異なり各局の作業のペースがつかめず、お互いの連絡調整がスムーズにいかないことがありました。しかし、準備の段階から当日の動きすべてにおいて委員一人ひとりが自分たちにできる役割は何か常に考えながら声を掛け合い、役割を遂行し、無事に大会を実施することができました。参加された方たちからは、今大会に対して「内容がとて

も充実していた」「様々な工夫がされており、興味を引く内容が多かった。もっとゆっくりと聞きたかった」といった意見や感想を多くいただきました。特に「作業療法の可能性を感じることができた」等、作業療法の専門性を再考するきっかけとなったという感想が数多くありました。また、プログラムや会場については事前に下見をしたり、これまでの反省を生かしながら構成や配置を考案してきました。その反面、会場の使い勝手について、会場の配置や空調についてなど様々なご意見をいただきました。次回は更に参加者の方々に有意義に過ごしていただけるよう意識が高まりました。今回、私も初めて局長として学会大会の企画・運営に携わらせていただき、大会が多くの人の手によって作られていくことを体感させていただきました。今大会に携わっていただいた参加者・演者・運営委員の皆様へ感謝の気持ちを心から感じることができました。

来年度はPT・OT・STの3士会が一同に会して、第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学会大会を開催する予定となっています。これまでの各士会の経験を十分生かし、より充実した内容の大会が作られていくことを期待したいと思います。興味のある方は企画・運営する側の活動もお勧めしたいと思います。



## 施設紹介

### 株式会社 山梨福祉総研

佐藤 功一  
深沢 太郎

<所在地> 〒400-0117 山梨県甲斐市西八幡 903

<沿革>

2005年 株式会社 山梨福祉総研設立  
訪問看護ステーション かのん  
訪問マッサージ かのん  
居宅介護支援事業所 かのん 開始  
2006年 デイサービス リハかのん  
2008年 デイサービス リハかのん玉幡  
2010年 デイサービス リハかのん若草



<各事業所の紹介>

#### 訪問看護ステーション かのん

「いってきます」「いってらっしゃい」「気を付けて」などの掛け声が誰からも聞こえてくることが印象的でスタッフ間の風通しがよいのが自慢です。

現在、看護師5名、PT3名、OT1名、ST1名で仕事をしています。

在宅生活を支えることについて、個々のスタッフが熱い思いを持っており、一人の利用者さんをスタッフ全員で支えています。

県内の訪問看護ステーションと比べて、比較的多くのセラピストが従事しているのも特徴の一つです。また、訪問看護ステーションという特徴から、神経難病の利用者さんが多くなってきており、日々奮闘しています。

#### デイサービス リハかのん

スタッフが全員「自立支援」の立場で対応し、なりたい自分の実現を援助するようにサポートしています。また、実際の場面を大事にし、階段昇降や屋外歩行などをスタッフの誰が行っても、安心して行えます。また、3事業所あるものの、それぞれで特徴があるのも魅力です。まだまだ発展途上であり、日々よくなるようにお互いに意見をぶつけ合い高めています。

#### 居宅介護支援事業所 かのん

ケアプランに対してのこだわりは人一倍あり、常に上を見続けています。常に進化し続けるのが当施設の居宅介護支援事業所です。

#### \* 訪問マッサージ かのん \*

「三度の飯より仕事が好き」で自分が訪問してすべて責任を持って行うことが最大の強みと。利用者さんと家族に安心感を持ってもらえるように関わっていると自信を持って話すのが当施設のマッサージです。施術は30分間きっちり行ない、丁寧な対応を心がけています。

<会社の中でのOTの取り組み・意識していること>

社長がセラピストということもあり、全体的にリハビリには協力的で雰囲気はよい状況にあります。

現在、OTは訪問看護ステーションとデイサービスに配属されています。

訪問看護ステーションからは利用者さんの主体性を引き出すアプローチや利用者さんにとって意味のある作業へつながるように、調理練習を行ったり、作品作りを行っています。それを日々のカンファレンスで情報を発信しています。

「心が動けば、身体が動く」ことを意識しながら、一つ一つの訪問を大事に行っています。

デイサービスでは、小規模の利点を生かしながら利用者さんに、より近い位置で関わっています。日々の送迎や利用時間内での関わりはもちろん、スタッフと一緒に雑務を行うなど、スタッフの一員として関わっています。

その中で利用者さんやスタッフの特性を見極めて、環境を整えることも行っています。個別の関わりだけが利用者さんへの関わりと考えずに、時には遠くから見守ることの重要性も発信しています。

とはいえ、OTでは常識的なことも他職種から見れば非常識であることも多いため、日々のコミュニケーションなどでは、相手の立場を理解しながら関わっていき、その中で、OTとしての自分たちが理解されるようになってくればいいと思っています。

OTが武器としている「作業」というものを大事にしながら、これからも会社へはもちろんですが、外部へのアピールをもっともっと行っていきたいと思います。また、県士会の活動にも参加していきたいと思います。

今後ともよろしくお願いします。

リハスタッフがデザインした  
オリジナルTシャツ！



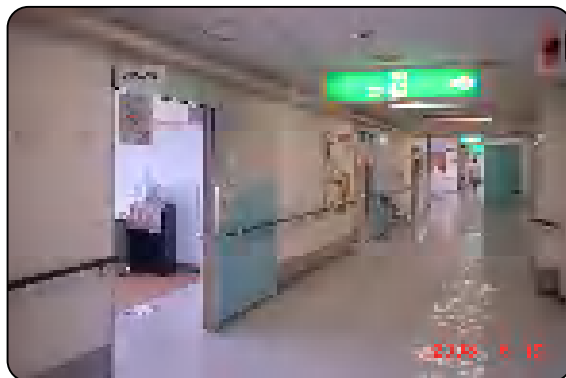
自慢のリハスタッフです！



小児だより

石和共立病院 小児リハ室

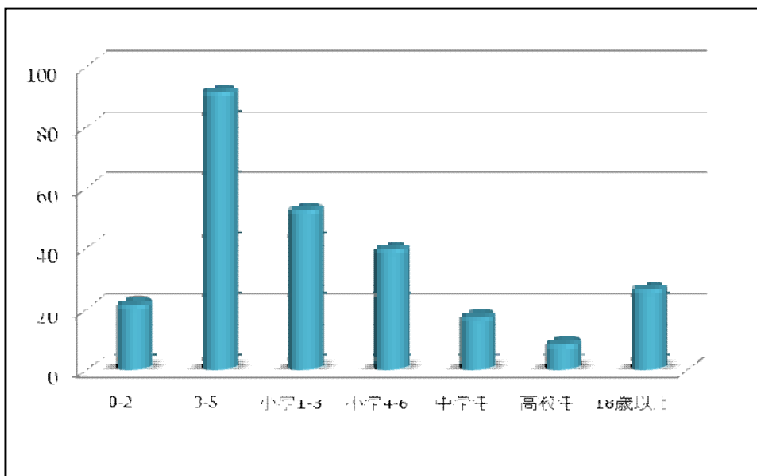
伊東 仁香、縣 のぞみ、平山 千奈美、栗田 淳、原田 実由



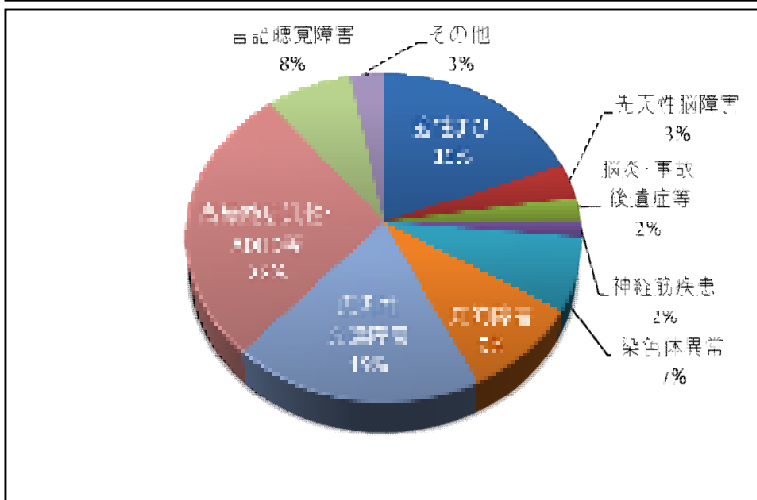
病院概要

当院の小児リハビリは、1992年（平成4年）に少人数の子どもを対象に開始されました。それから今年で22年目を迎え、現在は年間300名（平成25年度実績）の子ども達が、笛吹市及び周辺の市町村から通院しています。

年齢



疾病区分



## 小児リハビリについて

当院では5名の作業療法士、3名の理学療法士、1名の言語聴覚士が在籍しています。発達につまずきをもつ子どもに個別外来リハを行っています。遊びを中心とした色々な作業活動を利用して、個々の発達課題や、将来にわたる生活を考慮した支援を行っています。得意なことは何か、どんなつまずきを持っているのかを理解しアセスメントしていく1時間のリハビリは気が抜けません。一つ一つの課題を丁寧に解決し、子どもの「出来た！！」という経験を大切に関わります。得意な面を伸ばし苦手な部分を補っていく支援を心掛けています。また、子どもへの直接的な関わりだけでなく、親、家族、先生など子どもを取りまく人たちへの困り感への援助も行います。そして、協同を求めながら子どもが家庭や保育園、学校など地域社会でその子らしく生き生きとした生活がおくれるよう、日々試行錯誤しながら取り組んでいます。



## その他の取り組み

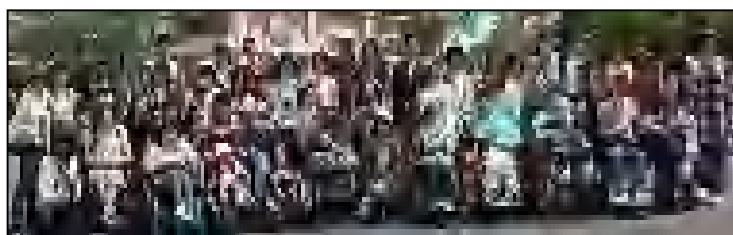
- ・同じ悩みを抱える保護者班会の結成
- ・子育てワークショップの開催
- ・障害児相談支援事業への派遣協力
- ・親子療育教室へのスタッフ派遣
- ・小児科医師を中心に制度見直しに向けての自治体への働きかけなど



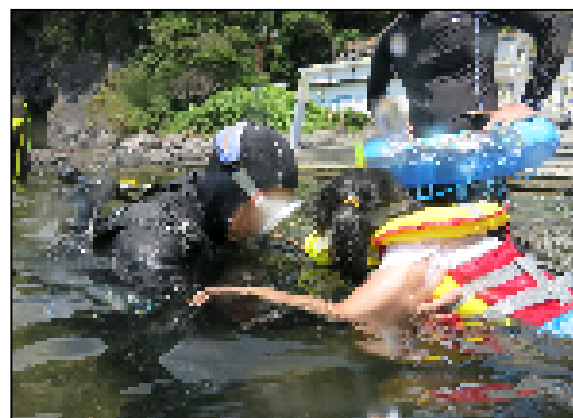
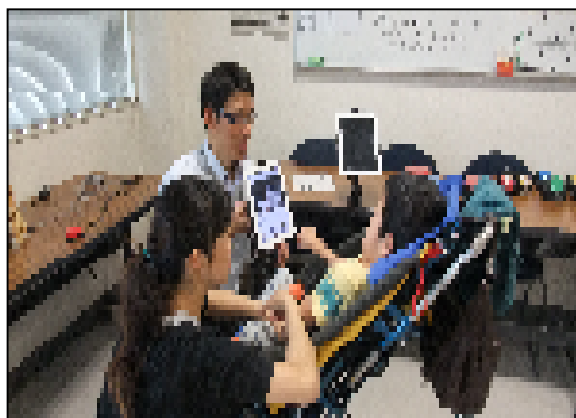
班会



リハビリの様子



ディズニー旅行



## 地域リハビリテーション 従事者研修会の報告

社会局 事業部 地域リハビリテーション従事者研修会実行委員  
しらゆり訪問看護ステーション  
飯野 知一

地域リハビリテーション従事者研修会は、山梨県の事業を山梨県リハビリテーション病院・施設協議会が受託し運営、開催をしており、私は実行委員という形で参加をさせて頂きました。今年度は平成 25 年 12 月 5 日に山梨県立男女共同参画推進センターぴゅあ総合にて、テーマを「地域でその人らしい生活を続けていくために ~それぞれの立場から自立支援を考える~」とし、開催されました。医療機関や施設、市町村、地域包括支援センターの職員等、所属や職種を問わず対象としており、多職種が地域リハビリテーションの考え方や活動を理解し実践者となることを目的とし、講演や活動報告、事例報告を通してのグループワークが行われました。

まず、高齢者を取り巻く現状や地域包括ケアシステム、地域リハビリテーションの展開について山梨県福祉保健部長寿社会課の貫井信幸氏より講演がありました。今回の研修会の幹ともいえるべき内容で、今後の地域のあるべき姿を提示して頂きました。活動報告としては、富士・東部地域リハビリテーション広域支援センターより具体的な実践と活動を通して得られた地域のニーズ、今後の展望といった内容を報告して頂き、広域支援センターとしての役割を理解できました。

事例報告としては、フリーランスで作業療法士の久保田好正氏、貢川訪問看護ステーションの岡崎信子氏、三枝りえ氏より地域における具体的なリハビリテーションの視点と重要性、多職種と連携・協働することの必要性について、日々の実践を交えながら報告して頂きました。

グループワークでは活動報告や事例報告を通して、多職種がそれぞれの立場から経験も踏まえながら、医療的な視点のみではない「リハビリテーション」の考え方と、一人の生活者を支援していくために必要な視点など多職種での構成だからこそできるディスカッションが活発に行われました。参加者の中には病院や施設に勤務されている方も多くいましたが地域でのリハビリテーション、支援の大切さを参加者皆さんが共有できていたように思います。また、情報共有や退院時の申し送りが難しい、どこへ相談をしたらよいかわからない、といった意見も出ており、改めて各専門職の情報発信力の重要さを感じました。ディスカッションの内容もさることながら、それぞれ異なった現場で働いている他・多職種がひとつのテーマでディスカッションを行うというあまり機会のない貴重なグループワークであり、他・多職種の理解が深まると同時に我々OTも積極的に地域にアピールしていく必要性を実感しました。





## 理事会便り

### 一般社団法人 山梨県作業療法士会 2013年度 第6回 理事会議事録

日 時：平成 25 年 10 月 16 日(水)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、広田、古屋、三瀬、工藤、長坂、松田、  
白木原、青木、有泉、関谷、磯野；12名

#### 1. 副会長(広田・古屋)

1)平成 25 年 9 月 19 日(木)山梨県中北保健福祉事務所からの依頼により新川地域在宅医療支援センターの視察に広田副会長が出席。

2)平成 25 年 10 月 12 日(土)都道府県作業療法士会連絡協議会に広田副会長が出席。

#### 2. 事務局(三瀬)

1)平成 25 年 9 月 12 日(木)中北地域リハビリテーション連絡会に三瀬理事出席。

2)平成 25 年 10 月 4 日(金)山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会第 1 回運営会議実施。

<管理部>

1)会員数 494 名(平成 25 年 10 月 16 日現在)

#### 3. 社会局(松田)

<事業部>

1)平成 25 年 9 月 28 日(土)いきいき山梨ねんりんピック開催。

#### 4. 学術局(佐藤・青木・有泉・白木原)

<企画研修部>

1)第 4 回企画研修部研修会

日 時：平成 25 年 10 月 6 日(日)

会 場：大木記念ホール

テーマ：認知神経リハビリテーションの基礎及び  
ADL 向上に向けたアプローチ

講 師：宮口英樹 氏

参加者：83 名

<生涯教育部>

1)現職者共通研修

日 時：平成 25 年 9 月 17 日(火)

会 場：山梨リハビリテーション病院

テーマ：実践のための作業療法研究

講 師：佐藤真一(健康科学大学)

参加者：45 名

日 時：平成 25 年 10 月 1 日(火)

会 場：大木記念ホール

テーマ：事例報告と事例研究

講 師：黒崎真樹(健康科学大学)

参加者：53 名

日 時：平成 25 年 10 月 10 日(木)

会 場：大木記念ホール

テーマ：作業療法の可能性

講 師：久保田好正

参加者：41 名

<学術大会運営部>

1)学会運営部員の学会参加費については免除すること  
で理事会の承認を得た。

#### 5. 常設委員会(関谷)

<特別支援教育委員会>

1)平成 25 年 9 月 19 日(木)甲府支援学校にて教員  
と意見交換会を開催。

### 一般社団法人 山梨県作業療法士会

### 2013年度 第7回 理事会議事録

日 時：平成 25 年 11 月 13 日(水)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、広田、古屋、三瀬、工藤、長坂、松田、  
佐藤、青木、有泉、磯野、川崎；12名

#### 1. 会長(山本)

1)平成 25 年 11 月 12 日(火)3 士会合同意見交換  
会に山本会長、広田副会長、古屋副会長、三瀬事  
務局長が出席。

#### 2. 事務局(三瀬)

1)山梨県福祉保健部医務課より秋の叙勲および褒章  
候補者の推薦について該当者なしと回答。

2)車いす SIG より「車いす SIG 講習会 in 甲府」の  
後援依頼を受託し承認。

<管理部>

1)会員数 506 名(平成 25 年 11 月 13 日現在)

#### 3. 社会局(松田)

<渉外部>

1)山梨県主催の介護職場人材育成研修(自立支援  
リーダー研修)事業プログラムへの講師として久  
保田好正、森彰司(甲州通所リハビリテーション  
一宮営業所)を派遣。

#### 4. 学術局(佐藤・青木・有泉・白木原)

<企画研修部>

##### 1)第5回企画研修部研修会

日時:平成25年11月10日(日)  
会場:アリア・ディ・フィレンチェ内 サロ  
ネ・ディ・アリア マイスターホール  
テーマ:生活行為向上マネジメントの概要と実践  
講師:土井勝幸氏(介護老人保健施設せん  
だんの丘)

参加者:71名

#### 5. 常設委員会(関谷)

<特別支援教育委員会>

1)平成25年10月30日(木)委員会開催。

#### 6. 臨時委員会(磯野)

<災害対策準備委員会>

1)平成25年11月11日(月)PT・OT・ST合同  
会議開催。

#### 7. 特設委員会(磯野)

<地域リハビリテーション委員会>

1)地域リハビリテーションフォーラム2013  
日時:平成25年11月7日(木)  
会場:甲州リハビリテーション病院大木記念ホ  
ール  
参加者:82名

#### 一般社団法人 山梨県作業療法士会 2013年度 第8回 理事会議事録

日時:平成25年12月17日(火)  
会場:甲府城南病院 作業療法室  
出席者:山本、広田、古屋、三瀬、長坂、白木原、青  
木、有泉、佐藤、関谷、磯野、川崎;12名

#### 1. 会長(山本)

1)平成25年12月2日(月)自由民主党山梨県支部  
にて県政に伴う予算編成意見に対する訪問調査に  
山本会長、広田副会長出席。

#### 2. 副会長(広田・古屋)

1)平成25年12月14日(土)第7回日本介護支援  
専門員協会全国大会に古屋副会長出席。  
2)選挙管理委員長に青木俊喜(市立甲府病院)に決定。

#### 3. 事務局(三瀬)

1)3士会合同学術大会の開催日が平成26年12月  
6日(土)・7日(日)に決定。

2)交通費規定について、規定の金額(1000円)を超  
える場合、基準となる燃料単価が1km/10円から  
1km/20円に変更。

#### 4. 広報局(工藤)

<企画編集部>

1)広報ニュース84号を発送。

#### 5. 制度対策局(長坂)

1)平成25年12月4日(水)中央社会保険医療協議  
会総会へ長坂理事出席。

2)平成25年12月13日(金)山梨県介護医療連携  
推進会議へ長坂理事出席。

#### 6. 学術局(佐藤・青木・有泉・白木原)

<学術大会運営部>

1)第6回山梨県作業療法学術大会  
日時:平成25年12月1日(日)  
会場:山梨英和大学  
テーマ:前進~そこから一步ふみ出そう~  
参加者:216名

<生涯教育部>

1)現職者共通研修  
日時:平成25年12月13日(日)  
会場:大木記念ホール  
テーマ:日本と世界の作業療法の動向  
講師:森下賀子氏(日本医科大学付属病院)  
参加者:21名

2)現職者選択研修  
日時:平成25年12月15日(日)  
会場:山梨県立青少年センター  
テーマ:精神障害領域  
講師:大関健一郎(帝京科学大学)  
原京子(峡西病院)  
花宮豊(吉祥寺病院)  
柿崎崇(小沢クリニック)

参加者:27名

#### 7. 常設委員会(関谷)

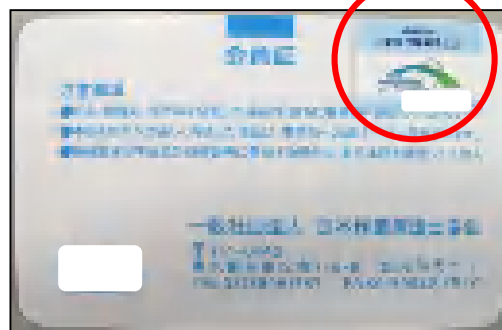
<福祉用具委員会>

1)第6回山梨県作業療法士会学術大会にてワークシ  
ョップを開催。

## 一般社団法人 山梨県作業療法士会 会員シールの取り扱いについて

入会申請書及び会費の納入が確認された正会員に「会員シール」を発行しております。「会員シール」は、日本作業療法士協会会員証裏面に貼付（下記参照）し、士会主催の学会および研修会等に参加する場合は、必ず提示して下さい。

なお、「会員シール」の再発行は行っておりませんので、本証を紛失されないようご注意ください。



### 一般社団法人 山梨県作業療法士会会員手続きについて

#### 入会について（会員の構成）

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人（作業療法士対象）
2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功勞のあったもの又は学識経験者

**いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。**

#### 会員手続きについて

各種申請書（入会申請書 / 登録変更届 / 休会・復会届 / 退会届）を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送またはFAXにてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きますようお願いいたします。

#### 連絡・送付先

一般社団法人 山梨県作業療法士会 事務局 管理部  
〒400-0831 山梨県甲府市上町753-1  
甲府城南病院 リハビリテーション部 作業療法科内  
FAX：055-241-8660（代）  
TEL：055-241-5811（代）

理事長の健康・福祉・心理の専門資格が揃った



**健康科学人学 10th**  
HEALTH SCIENCE UNIVERSITY 10th ANNIVERSARY

健康科学大学 学術発表会・健康科学大会

<http://www.keenkoudai.ac.jp>

TEL 055-833-5290

SAKAI EXPO

標準電力計 モービー



標準電力計のスタンダード  
シンプルなのに高精度、更に安心価格で提供！

従って電力計・電力計・電力計  
電力計・電力計・電力計



2014.02.20-24



2014.02.20-24

電力計・電力計・電力計  
電力計・電力計・電力計  
電力計・電力計・電力計

## 編集後記

- 12月に第3子が生まれました。10年ぶりのオムツ替えに悪戦苦闘の毎日です(く)
- 先日、後輩の結婚式の二次会に参加しました。“感動しました”“未永く幸せに”(米)
- まったく別の業界の方々の接遇に感動する体験をしました。初心を忘れず、仕事を続けたいと思いました。(ふ)
- 今年の冬は体調を崩しすぎたので、春に向けて健康な体を作ります。(梶原)
- 毎日ミカンを4個食べて、手足がすごく黄色くなりました。辛いですが、ミカンを控えます(土屋)
- 男厄まで、あと10年あるのですが、今年は厄払いしておこうかと思っています。皆さんも体に気を付けて!!(内)
- 2月の大雪にはまいりましたね。徐々に家に帰れないかと思いました....(飯)
- 大雪の雪かきで全身の筋肉痛が.....運動は大切ですね。(つ)

発行人：山本 伸一

編集人：工藤 亮・飯野 知一・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・米山 敦・河野 香・今泉 隼・精進 智規・金田 勇一

発行所：一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

しらゆり訪問看護ステーション 〒400-0114 山梨県甲斐市万才 287 TEL 055-276-1155

FAX 055-279-1262

印刷所：(株)島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡清水新居 1534 TEL 055-233-8829